vinetur

飲食店、10月に7,200人分の雇用を削減

ホテルでは3,400人分の雇用が失われ、宿泊・飲食サービス業全体では10月に10,600人分減少した。ただし、前年の水準は上回っている

2026年11月9日（月）



米国の飲食サービス・飲酒施設では、10月に給与支払い対象の雇用が7,200人分減少し、9月に記録した小幅な伸びが途切れた。11月6日に公表された連邦政府の速報値によると、接客・サービス業の雇用が弱含んだことを示す動きが加わった。

米労働統計局（BLS）によると、季節調整済みの飲食サービス・飲酒施設の雇用者数は、9月の12,390,900人から10月には12,383,700人に減少した。9月は8月から11,000人分増加していたため、今回の月次変化は前回の報告から18,200人分悪化した。

これまでに公表されたデータでは、減少は1カ月にとどまり、業界の雇用者数は前年同月の水準を上回っている。2025年10月と比べると、飲食サービス・飲酒施設の雇用者数はなお57,200人多く、約0.46%増加している。

10月の落ち込みはレストランやバーに限られなかった。ホテルなどの宿泊施設を含む宿泊業でも、季節調整済みの雇用者数が同月に3,400人分減少した。宿泊業と飲食サービスを合わせると、10月の雇用は10,600人分減り、より広い区分の雇用者数は合計14,304,100人となった。

この合計は2025年10月をなお53,400人上回っており、主要な2つの構成業種がともに月次減少となる一方、前年同月比ではプラスを維持したことが分かる。

今回の数値は、米労働統計局の「雇用情勢」報告書の表B-1に掲載されたもので、産業別の非農業部門雇用者数を示している。雇用者数は同局の事業所調査に基づき、雇用主の給与台帳に記録された仕事の数を数えたもので、個人の労働者数を示すものではない。また、採用総数を表すものでもなく、業界全体での採用と削減を差し引いた月間の純増減を示している。

レストラン、バーなどの飲食サービス業にとって、10月の減少は9月の改善に続く反転となった。飲食サービス・飲酒施設は宿泊・飲食サービス業の大部分を占め、個人消費の動向を測るうえで注目される分野であることから、この反転は注目に値する。同業界の雇用は、家計支出、事業所への人出、観光、労働コストの変化に左右されやすい。

ただし、今回の数値だけで持続的な縮小が示されたわけではない。月次の雇用者数は改定されることが多く、増加の翌月に減少したからといって、長期的な下降局面に入ったとは言えない。最新の報告が示すのは、9月の小幅な増加の後、10月に弱含んだものの、業界の雇用者数は前年の水準をわずかに上回っているということだ。

宿泊・飲食サービス業全体では、宿泊業と飲食サービス業の双方で月間の減少が同時に生じた。両区分が10月に減少したため、業界全体の月次の落ち込みは、レストランだけの場合よりも明確になった。それでも前年同月比では増加しており、過去12カ月に積み上げた雇用のすべてを失ったわけではない。

BLSは10月の数値を速報値としており、雇用主から追加報告を受けて処理が進むにつれて改定される可能性がある。現時点の報告では、米国のレストラン・バー業界は、前月より給与支払い対象の雇用が少ない状態で年の最終四半期に入った。ホテルなどの宿泊事業者も人員を削減した。